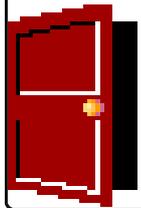


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年5月20日 文責 渡邊

保護者の皆様には、『読書活動への扉を開く』をお読みいただき、そして、たくさんの感想や意見を寄せてくださりありがとうございます。

今回は、学校に届いた「保護者の声」を中心に、読書活動を考えます。「大自然の読書」の大切さについて寄せられた文章です。読ませていただき、広く保護者の皆様方にもお知らせしたく紹介させていただきました。

永い学校生活や現在の翻訳仕事の関係で「読書」という活動によくお世話になっています。確かに、とても大事だなと感じられますね。ただ、人間の作った世界ですから、下手をすると知らないうちに偏り、やり過ぎ、バランスを失う事もあるかと思えますので、できれば「文章の読書」だけでなく、是非、「大自然の読書」を試してみたら如何でしょうか？

養老孟司さんという解剖学者・脳科学者の話が大好きなのですが、(今はたかさんの本だけではなくて、ネット上でも、つい最近のお話も聞けますし、子供の事をすごく心配していて、気にしてくれている人で、虫の研究者でもある)、養老先生が勧めているように、あえて人間ではない部分、その世界を毎日、少しでもいいので見て味わうようにしてみるとよいかもかもしれませんね。

皆さんが、こんなすばらしい環境のまん中にあり、実際に「自然」を見つめて「読書」をしたことがありますか？この種類の「どくしょう」には、体を動かすこと、あるいは、静かにでも体を使うことが必要です。つまり、いわゆる五感の活躍が必要です。

「季節の息吹」「水の流れ」「空」「雨」「雷」「生き物」「野草」「畑の野菜」などが、あるいは自分自身の「体」が「大自然」そのものなのですが、これらの自然要素とは、別の言葉で言えば、「無意識」「未知」「変化」「可能性」「命」「奇跡」「大安心」の次元へ連れて行ってくれるものだと思います。

人間の頭の領域だけではなく、現実(自然)を体験すると、人間の脳を含めて、とても良い刺激となり、楽しく人間の素晴らしい力を促してくれるように感じます。「頭」「意識」「情報」「知識」だけでは、人間はとらわれて、執着してしまいますので、物が実際に変化し続けているのに、心が止まってしまいそう、決めつけの中で苦しそうです。分からないような不思議な世界を体感して、目を覚まさないで勿体ない。

是非、いろんな「読書」を試みましょう。大自然の要素を見つめたり読んだりして、それから、よかったらまたそれを声に出して詠んでみるのもいいかもね。

(2. 6年生保護者)

桑村小学校は、大きな自然に囲まれ、保護者や地域の皆様方の応援の中、豊かな体験活動を行うことができます。そして、子供たちはたくさんの気づきや発見をしています。しかし、ここで大切になる学習が「振り返り」です。子供たちは体験活動をしているときに、その行為に夢中で大切な気づきや発見が自覚できないでいるように思われます。無自覚的な気づきを自覚的な気づきへと高める学習が必要になるのです。



子供たちがそれぞれに得た気づきが自覚化されたとしめたものです。それが深い学びへとつながるのです。

そして、次に、子供たちは自分の気づきを友達に伝えたいと思うことなのでしょう。これも大切な学びとなります。友達との交流を通して、自分の思いや考えが広がっていくかもしれないからです。

しかし、この友達との交流から何も得られないときがあります。一つは、発信する側の問題です。自分が感じたことや思ったことを上手に伝えることができず、相手に理解してもらえないときです。もう一つは、受信する側の問題です。相手が伝えようとしている内容を理解できないときです。

前にもお伝えしたかもしれませんが、こうした原因として「生活言語」と「学習言語」が大きく関わっているように思われます。普段の学校生活で、休み時間等で活発にやりとりをする言語は「生活言語」です。この言語は、関係者がそのときの雰囲気共有しているもので、つたない言葉でもお互い理解することができます。しかし、学校生活の授業で扱う教科書の言語や教師が指示する言語は「学習言語」となります。この言語では、抽象的な内容の言葉を理解することが求められます。そして、私たちが推進している「読書活動」の図書に書かれている文章表記も「学習言語」となります。

幼児期の子供たちは、遊びを中心に園や家庭で「生活言語」を中心に生活してきました。それが、小学校へ進学したとき、教科書で学ぶことを中心とする学校生活で「学習言語」への学びへと移行していくのです。

豊かな体験活動から、子供たちはたくさんのことを学びます。そこで学習した気づきを自覚化したときに用いる言語は、「学習言語」となります。自分の思いや考えを友達に伝え、友達との交流から自分の思いや考えを広げ深めていくには、「学習言語」を自由に扱う豊かな表現力が必要になるのです。

『読書活動への扉を開く』（4月18日創刊号）で、次の文章を載せました。

桑村小学校は、素晴らしい学習環境にあります。自然が豊かで、様々な体験活動ができるからです。子供たちは、その体験活動を通し、五感が育てられます。それをそこで終わりにしてしまうのはもったいないと思います。五感が鍛えられた子供たちは、読書を行うことで、そこでもたくさんの経験を楽しむのではないのでしょうか。自分の経験を読書の世界へとつなげ、たくさんの「想像」と「創造」を育成していくのです。子供の有する可能性は無限です。それをたくさん引き出してあげたいと考えます。

読書活動の推進については、全国の小学校で展開されていることと思います。先進的に取り組んでいる学校もありますが、それを模倣するだけではもったいないように考えます。「大自然の読書」を思いっきり活用するのです。

桑村小学校では、桑村小学校の「強み」（大きな自然に囲まれ豊かな体験活動を行うことができる）を土台に、それを読書活動へとつなぐことで学校と家庭、地域社会とが連携した取組を推進し、子供たちに「豊かな感性」と「深い思考力」を育成していきたいと考えます。

この読書通信『読書活動への扉を開く』は、本校のホームページにも掲載し、地域の皆様方へも広く紹介しています。これからも学校から家庭、地域社会へと、「大自然の読書」を大切に、読書活動の輪が広がっていくことを期待しています。ご理解、ご協力をよろしくお願いします。